

横浜市は 上郷開発やめて緑地保全を

「営利目的の開発計画にストップ！環境・緑・生態系を守れ」
この圧倒的多数の声をこれからも市長に届けよう！

港南台9丁目のマンション付近から見た上郷猿田地区。
左端の舞岡上郷線道路より右側の緑地のほとんどを開発しようとしています。



上郷猿田地区は、
横浜市が公費投入も含め、緑の全面保全に責任を負うべきです。

市民の運動で守られてきた上郷の緑が…

貴重な動植物が息づき、夏にはホタルが飛び交う緑の宝庫、上郷・瀬上の森。幾度となく開発計画が持ち上がりましたが、緑を守りたいという住民の声に押され、実現には至っていません。ところが横浜市は、この地域を開発する計画を発表。上郷の緑に危機が迫っています。

東急案ほぼまるのみの市計画案

横浜市は、2014年1月に東急建設から提出された栄区上郷猿田地区開発計画のほんの一部を修正し、「都市計画市素案(案)」を発表しました。

案では、舞岡上郷線西側のほとんどの緑地部分を含む約12・5haを住宅や商業用地等にする変更計画です。東急建設の開発計画に対して、「緑・環境を守れ」と11万人を超える反対署名が市に提出されています。



「上郷・瀬上の自然を守る会」「上郷開発から緑地を守る署名の会」「ホタルのふるさと瀬上沢基金」の3団体は、「上郷・瀬上の自然を守る請願署名」10万9,611筆を横浜市長と市議会議長宛に提出しました。
=2014年2月7日、横浜市役所。

横浜市は温暖化防止に貢献しよう

上郷瀬上の自然を考える会 代表 山仲 章介

パリでは世界中の国が集まってCOP21が開かれました。この会議は、地球温暖化ガスの削減に向けて各国の削減目標を決める歴史的なものとなりました。これまで消極的だったアメリカと中国が前向きに方針転換したことが、会議全体を大きく動かししました。

しかし、恥ずかしくもみっともなくも、我が横浜は上郷のみどりを破壊して必要のない市街地を作り、地球温暖化ガスを更に排出しようとしています。世界の趨勢に反する行動は行うべきではありません。

一緒に緑地を守りましょう!

上郷開発から緑地を守る署名の会 世話人 皆川 昭一

1990年前後、バブル崩壊後、開発が抑制されているにも拘わらず、東急建設は「市街化調整区域」である瀬上地区の田んぼや畑30数haの土地取得を強行し、住宅や商業施設をつくる計画を出しました。しかし、20数年経過した現在も、「調整区域」という重い事実がネックとなって開発計画は実行できませんでした。

そこで横浜市は、その「調整区域」を開発可能な「市街化区域」に変更する態度へと変えたのです。その結果が今回の開発計画素案(案)です。

上郷開発から緑地を守るためにがんばりましょう。



改めて説明会と意見募集を

日本共産党横浜市議員団は、改めてわかりやすい説明会を行い、12月14日に締め切った「素案(案)」への意見募集を引き続き行うよう求めています。



都市計画市素案(案)の説明会で説明する横浜市担当者
=2015年11月30日、栄公会堂。

形式的なアリのバイづくりの説明会

昨年11月30日に「計画素案(案)」の説明会が行われましたが、関係地域住民への事前周知は全く不十分なものでした。

また、説明会での説明に対して、「わずか30分間はひどい」「早口の専門用語で話をされても、何を説明されているのかわからない」「意見を言う時間がなかった」等の苦情が相次ぎました。今回の説明会は、極めて形式的、アリのバイづくりといえます。

同時に、長年にわたってこの地を守ってきた地権者の方々にとっては、土地の活用についての先行き不安があるのは当然です。将来の見通しについては、東急建設と横浜市が責任を負う必要があります。

上郷の自然を守ろう！



この緑をなくして住宅街をつくるなんて、栄区の住宅が足りないの？近所ではどんどん空き家が増えているんだけど。
(30代女性・港南区)



谷戸に向かう道にある東急建設の柵



緑地から港南台方面を見る

民意を無視した開発は許されない！
上郷・瀬上の自然を守る会 井端淑雄
開発反対の署名11万余筆（栄・港南区で約2万5千筆）に対し、開発を望む署名は900筆弱。また、市のアンケート結果でも、市民の98%以上が緑地の維持・拡大を望んでいます。
今回の開発計画で約9・5分の緑地が消滅します。民意を無視しているだけではなく、市民にみどり税を課し、緑被率アップをうたう市の方針にも全く反しています。
開発計画地は、約30年前に軟弱地盤の上に大規模盛土が施されています。今回、その上に最大で14層もの盛土をして市街地を造成する計



画で、地滑り・液状化などの自然災害の誘発が危惧されます。
さらに、国が今年の夏決定した国土利用計画の大方針「自然災害の未然防止」に逆行するものです。

上郷開発これまでの経緯

- ◆1992年1月 東急建設が開発申請(開発面積約35.8ha)
- ◆2007年12月 市民が緑地保全を求める署名9万2000筆を横浜市長に提出
東急建設が都市計画提案提出(同約20.6ha)
- ◆2008年7月 横浜市提案評価委員会が提案否決
9月 横浜市都市計画審議会が東急の計画提案を正式拒否
- ◆2012年3月 横浜市が東急建設に「助言書」を交付
- ◆2014年1月 東急建設が都市計画提案の再提案(同約12.5ha)
- ◆2014年2月 開発予定地(上郷・瀬上)の自然を守る請願署名10万9,611筆を横浜市長と市議会議長に提出
- ◆2015年6月 横浜市提案評価委員会が提案に対する評価書を提出
- ◆2015年10月 横浜市が評価書に沿った都市計画素市案(案)を公表(同約12.5ha)

下の写真はいずれも上郷深田遺跡で見つかった遺構



鉄の精錬炉



銅の精錬炉

出典：横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター資料



ホタルの谷戸

瀬上沢の森を守ろう！

認定NPO法人「ホタルのふるさと瀬上沢基金」理事長 角田東一
栄区港南区は人口減少社会に突入し、宅地開発は必要性も許可の根拠も失いました。緑地の喪失による地球温暖化は、猛暑や豪雨被害をもたらしています。

上郷開発が認められない理由

- 人口フレーム割当根拠がない
 - 国交省第五次国土利用計画、県線引き基準、市マスタープランに不整合
 - 谷戸埋立て偏土圧断面図・地盤面データ・取付け道路風速測定の不正確
 - 製鉄遺跡の破壊
 - 地球温暖化を加速する、などからです。
- 「ホタルのふるさと瀬上沢基金」は、上郷開発地区の土地取得・借用を目的に平成20年発足し、現在会員は300人、寄付は延べ1万3千人、約1千万円となっています。

県内唯一の古代製鉄遺跡

「上郷深田遺跡」

日本共産党横浜市会議員みわ 智恵美



上郷深田遺跡は、横浜市の都市計画道路「舞岡上郷線」建設に伴い、1986年から翌年にかけて発掘調査が行われました。調査の結果、7世紀中頃から9世紀前半にかけて約200年間にわたって営まれた古代の製鉄遺跡であることがわかりました。
この遺跡付近には縄文集落がありました。また、近隣の県立横浜明朋高校には松ヶ崎横穴墓群、栄区小菅ヶ谷町周辺には古墳時代の豪族の墓と考えられる七石山横穴墓群もあります。

発掘を行った横浜市埋蔵文化財調査委員会は「おそらく、この三浦丘陵一帯は、古代における砂鉄の重要な供給地のおける砂鉄の重要な供給地」

今回の東急の開発では、この遺跡は破壊するとなっており、上郷深田遺跡は、業者任せで記録保存を前提とすることなく、横浜市としてきちんと調査し歴史の解明へと取り組み、後世に手渡すべき場所ではないでしょうか。